

「極超低遅延音声伝送システム」初披露



注目を集めた極超低遅延音声伝送システムのデモの様子

ミハル通信は、映像と音声の低遅延への取り組みを見せた。

ブースでは、これまで注力してきた世界最高水準の極超低遅延8K映像伝送システム「ELL8K」のデモを行い、さらなる進化を見せた。ブース内では、8Kカメラで撮影した鉄道ジオラマ映像の伝送前後を8Kテレビに映し出し、低遅延・高画質での伝送が可能であることをアピール。

同社は、システム全体での低遅延化を実現するために、同8Kシステム以外の8Kカメラやテレビも遅延が少ないものを厳選したという。

今回特に注目したのは、参考展示している極超低遅延4K映像伝送システム「ELL Lite」を使った「極超低遅延音声伝送システム」が初披露され、音声の低遅延デモを行ったことだ。同システムは、音声インターフェース「MADI」と「Dante」に対応している。同社は、音声の遅延をなるべく小さくするために両方の音声インターフェースを備えているという。

今回、NTT東日本とNTT西日本を接続する新たなチャレンジとして、マイクとヘッドフォンを接続して音を大阪まで飛ばし、それをVPNルーターで信号を折り返して、幕張会場まで戻すデモを実施。音声の遅延はわずか15ミリ秒で、ほぼリアルタイムで音が戻ってくる体験を提供した。遠隔地にいるミュージシャン同士で、リアルタイムの演奏ができることを目指したいという。

これまで、FMラジオ局はISDN回線を使用した音声伝送が主流だったが、ISDN廃止でIP化が進んでいる。同社は、FMラジオ局の音声回線のIP化への期待と、コンサートホール間を結んでの演奏など、さまざまな分野で活躍できると期待を寄せる。